

平成28年度 第3回 北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました

平成29年2月27日、さくらホールにて、平成28年度第3回北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。

下半期の事業実施状況について長寿介護課より、みんなで考える地域包括ケア推進フォーラム「幸せに歳を重ねるための心づもり」や医師会と長寿介護課にて検討中の、認知症早期支援システムなど、主な取り組みが報告されました。また、理学療法士会小野寺氏・地域包括支援センターわっこ老林氏より、1月27日開催された「ケアマネと3療法士の連携会」についての報告がありました。

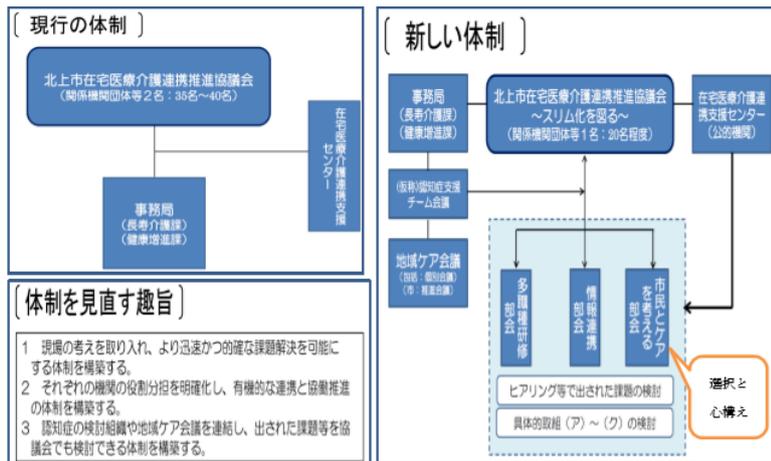
次に北上市在宅医療介護連携支援センターの相談支援状況について、平成28年10月～平成29年2月時点で、相談案件数33件（のべ件数53件）、相談方法として電話や来所その他、訪問による相談やケース検討会議を開催したこと、ショートステイ施設での看取りが困難な事例など3事例の報告が行われました。

事業報告に対して、一次連携の重要性や、ショートステイ先での看取り対応困難な状況の調査を行う必要がある、などの指摘をいただきました。

平成29年度事業方針（案）について、市民が「自分が望む場所で自分らしく暮らす」ことを支える「北上型地域包括ケア」を目指していくことが、長寿介護課より示されました。

事業推進体制については、抽出された課題に対し、迅速かつ確に解決を図るために、協議会のスリム化・部会体制の導入を行い、認知症の検討組織や地域ケア会議を連結し、出された議題等を協議会でも検討できる体制を構築していくことが示されました。

また、北上市在宅医療介護連携支援センターより、相談支援体制の強化・切れ目のない在宅医療と介護提供体制の充実・情報発信の強化、重点方針が示されました。



〔 役割分担の概要 〕

機関・組織名	主な所掌事項等	主な取組	
在宅医療介護連携推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療介護連携支援センターの運営協議 部会で検討した課題解決策等の協議 	(イ)(ウ)	
部会	多職種研修部会	<ul style="list-style-type: none"> 課題抽出と対応策の検討 課題解決に向けた研修会等の企画 	(イ)(ハ)
	情報連携部会	<ul style="list-style-type: none"> 岩手中部地域医療情報ネットワークの検討 情報共有ツール（連携パス等）の検討 	(ロ)(ウ)
	市民啓発部会	<ul style="list-style-type: none"> 市民の意思決定支援に関する検討（ACP等） 市民向けの講演会やパンフレット等の検討 	(キ)
（仮称）認知症支援チーム会議	<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チーム（早期発見・早期対応）構築の検討 医師会等関係機関との連携推進策の検討 		
地域ケア会議（地域包括支援センター）	<ul style="list-style-type: none"> 多職種協働による個別・困難ケースの検討 地域資源の掘り起こしと地域課題の抽出 		
在宅医療介護連携支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療介護資源の把握と情報公開 部会の開催及び支援 医療介護の多職種の相談支援窓口 	(イ)(ウ)(キ)	
協議会事務局（長寿介護課・健康増進課）	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療介護連携推進協議会の開催 在宅医療介護連携支援センターとの連携 地域医療構想との整合性を図る研究 	(イ)(ハ)(ウ)	



第 26 回患者の学校「物忘れ外来について」～認知症のアウトライン～

平成 28 年 11 月 27 日、さくらホールにて、びわの会主催により田郷医院の院長 田郷英昭医師の講演会が行われました。

認知症は病気が原因の物忘れで、もの忘れ外来では「ワンフレーズスクリーニング」テレビや新聞で見た最近のニュースを答えられるかの聞き取りなどを行うそうです。早めの診断・治療開始が大切です。認知症とうまく付き合う方法などや早期の介護サービス導入が必要なことを学びました。



グループホーム・認知症地域支援推進員意見交換会

平成 28 年 12 月 15 日（グループホーム 11 名・認知症支援推進員 5 名）、平成 29 年 2 月 21 日（グループホーム 7 名・認知症地域支援推進員 5 名）、グループホームと認知症地域支援推進員の意見交換会が、総合福祉センターにて開催されました。

1 回目の意見交換会では、ワークショップ（・業務の中で困っている事 ・こんなことがあればいいな ・こんなことをやってみたい）を中心にお互いの交流と意見交換が行われました。

2 回目は、現状と課題・その解決策について検討を行いました。職員の不足や業務量が多くきめ細かな支援ができないなど、共通の問題があげられる一方、居場所づくりやボランティア、安心・安全の視点、勉強会を開催したいなど、解決策につながる意見も多く出されました。今後も意見交換会を開催してほしいという声が多く寄せられました。今年度からは講義や事例発表、ワークショップなど、さらに業務に活かせる内容に深化させ、定例開催の予定となりました。

ケアマネ×3 療法士連携会が開催されました

主催：北上市地域包括支援センター主任介護支援専門員部会

平成 29 年 1 月 27 日北上市役所にて、介護支援専門員とリハ職の連携会が開催され総勢 98 名が参加しました。介護予防・日常生活支援総合事業・地域リハビリテーション活動支援事業について学んだあと、「地域づくりは介護予防」、地域生活を継続していくために必要なものは何かをテーマにグループディスカッションが行われ、地域に着眼した様々なアイデアや課題が話し合われました。居宅や施設等のケアマネ、病院や入所・通所・訪問系のリハ職が一堂に会し、ケアマネ同士・リハ職同士の連携も深めることができた連携会となりました。

平成 28 年度北上市社会福祉協議会合同研修会

講演「全世帯に広がる生活課題の現状と地域での支えあい～生活困窮者支援の現場から～」が開催

平成 29 年 2 月 8 日、さくらホール大ホールにて、「下流老人～一億総老後崩壊の衝撃～」の著者である聖学院大学客員教授・NPO 法人ほっとプラス代表理事藤田孝典先生を講師に迎え講演会が行われました。414 名という多くの方が参加され、日本の貧困の現状と生活困窮者支援に対する関心の高さをうかがわせる講演会となりました。

講演ポイント▶下流老人（類推約 700 万～1100 万人）とは生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある高齢者▶下流老人問題の本質は「あらゆるセーフティネットを失った状態」で自力では解決困難▶下流老人問題解決には個人の努力と並行して社会政策を変えていくソーシャルアクションが必要▶個人でできる下流化防止策は「関係性の貧困」をなくし「受援力」を身につけること▶幸せな下流老人の共通点は生活をダウンサイジングし周りとの助け合いながら暮らしている人

北上市在宅医療介護連携推進事業

「みんなで考える地域包括ケア推進フォーラム」



主催：北上市・北上市在宅医療介護連携推進協議会

平成 29 年 1 月 21 日さくらホールにおいて、東京大学特任教授清水哲郎氏をお迎えし講演会が開催されました。「老活のすすめ～上手に古い最期まで自分らしく生きるために～」と題し～幸せに歳を重ねるための心づもりをしませんか～というテーマでの講演会でした。

講演後のパネルディスカッションは、がんを患った 89 歳のお母さまを昨年自宅で看取られた小原享子氏、その療養生活を訪問看護師として支援した訪問看護ステーションあゆみの所長高橋昭子氏、病気により半身まひを持ちつつ自分らしい生活を日々模索し展開している佐々木量悦氏（動画で体験談を紹介）、日高見中央クリニックの作業療法士としてリハビリを担当し、療養生活をサポートしている二階堂静氏らパネリストの体験談発表の後、助言者として清水哲郎氏を交え、岩手県立中部病院星野彰医師のコーディネートにより行われました。来場者は 370 名で女性が 7 割と多く、年代としては 60～70 代の来場者が 7 割という状況でした。参加者の半分近くが一般市民であり、その他医療・介護・福祉関係者や民生委員、福祉協力員等の参加もありました。終了後のアンケートでは、老後の生活は心配という方が圧倒的に多く、90%以上の方が役に立ったと回答しておりました。

平成 28 年度岩手県在宅医療人材育成基盤整備事業 第 2 回在宅医療推進のための医師スキルアップ研修会

平成 29 年 2 月 17 日 北上済生会病院において「北上市の在宅医療の現状とこれから」について研修会が開催されました。医師会はホームクリニックえん千葉恭一先生が～医師同士の連携～在宅医同士が連携し互いに支援しあえる関係づくりが必要であり、施設も協力体制を作る在宅医ネットワークにより在宅医同士の集まりが総合病院機能を持つこと。また訪問看護との連携が鍵で看護師はキュアとケアの両方に精通、看護師連携による 24 時間対応、訪問看護ステーションや院内看護師を効果的に活用するなどのお話でした。歯科医師会は、二子歯科の高橋和敬先生から入れ歯の調整や簡単な抜歯、虫歯の治療、現在は口腔ケアや口臭予防などと嚥下のためのリハビリの指導なども行っております。薬剤師会は、ファースト調剤薬局伊藤貴文先生から医療提供体制の変化に伴い、薬の諸問題もメディアに取り上げられるようになり、薬剤師も在宅訪問指導するようになりました。在宅療養している人の服薬支援と薬をきちんと飲んでいない方への服薬支援を行っております。具体的な事例から各職種と連携し指示量を正確に飲んでもらえるよう働きかけていました。訪問看護ステーションあゆみの高橋昭子先生は、現在の訪問の現状と今後について訪問看護利用者は急増するため、訪問看護ステーションの受け皿不足、在宅主治医の不足、介護者の不足、施設の不足を課題としており希望としては在宅主治医、訪問看護の連携が要である。病院施設でのレスパイト入院・入所のベッドを確保する。行政は介護者に対する支援を行うなどの体制作りが必要だと述べられていました。参加者は 44 名でグループワークでは「こうすれば在宅医療はもっと良くなる！～北上型医療系職種連携の形～」について活発な意見が出されておりました。

平成 28 年度 第 2 回 口腔ケア従事者研修会

平成 29 年 2 月 28 日 (火) 県立中部病院講堂にて、元奥州市国民健康保険衣川歯科診療所長佐々木勝忠先生を講師に迎え、講演「地域における口腔機能維持管理」－口腔の健康を守るために－が行われました。

講演ポイント

◎症例からみる歯科の重要性

「口腔ケアで食べる」「歯科治療は長期的には生命にかかわる」「食べる楽しみは生きる喜び」から、歯科治療によって食形態をアップすることは栄養確保、生きる喜びの確保という点で重要である。

◎認知症と歯科

アルツハイマー型認知症の進行と日常生活機能低下の視点から食事自立の時期は、義歯を装着することで認知症の症状が少し改善するエピソードが多くあること、食事全介助の時期では、生死に関わるような低栄養になるため、栄養評価を行う必要がある。

◎患者・入所者の口の問題を誰が発見するのか

奥州市における歯科医師会と介護支援専門員の FAX 連携や県立中部病院での歯科衛生士採用や歯科医師会との連携事例を通して、介護支援専門員との連携、医療・介護現場に歯科関係者が介入する必要がある。



平成 28 年度 第 1 回 3 病院連絡会を開催

平成 29 年 3 月 24 日 (金)、県立中部病院大会議室にて、県立中部病院・北上済生会病院・花北病院のソーシャルワーカー及び退院支援に関わる看護師を対象とした 3 病院連絡会が開催され、約 20 名が参加しました。北上市在宅医療介護連携支援センター主催により実施されたものです。

議題 ○北上市在宅医療介護連携推進事業（北上市長寿介護課より）

○北上市在宅医療介護連携支援センター業務説明及び連絡会の目的

○各病院から現状と課題報告（在宅医療の 4 フェーズ日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り）

○グループワーク

グループワークでは、北上市長寿介護課の皆さんにも参加していただき、活発な意見交換が行われました。特に 3 病院共通の話題として、意思決定支援に関する内容が多くあげられました。今年度から定例開催とし、援助スキルの向上を図り、一次連携・二次連携・三次連携を進め、切れ目のない医療介護体制の構築を目指していきます。

及川健二課長が着任しました！

《編集後記》

医療介護職の皆さんと共に、北上型地域包括ケアの構築をめざして活動していきます。今年度も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

連携支援日より 3 号は 11 月～3 月に行われたさまざまな取り組みについてお知らせしました。今後も医療と介護の連携に関する情報や取り組み、連携支援センター活動報告などお届けしていきます。こんなことしたい、情報発信して連携したいなどありましたら是非情報をお知らせください。



在宅医療介護連携推進事業担当

北上市長寿介護課 及川 健二 課長
住吉 香奈子主任保健師



在宅医療介護連携支援センター

看護師 菊池 絹子
医療ソーシャルワーカー 菊池 涼子

《発行》在宅医療介護連携支援センター

〒024-8506

北上市花園町一丁目 6 番 8 号（北上済生会病院 管理棟 2 階）

TEL：0197-88-3011 FAX：0197-88-3012